**議題２の資料２の説明文**

それでは、議題２「令和３年度における「ユニバーサル都市・福岡の推進」について」ご説明いたします。

まずは、資料の左上、（１）本協議会の設置目的についてです。今年度新しく委員をお引き受けくださった方もおられますので、改めて目的についてご確認させていただきます。本協議会は、みんながやさしい、みんなにやさしい「ユニバーサル都市・福岡」の実現を目指し、ユニバーサルデザインの考え方に基づき、誰もが住みやすく、過ごしやすい街づくりの推進を図ることを目的に設置しております。

なお、ユニバーサルデザインの理念とは、年齢、性別や国籍、障がいの有無等を問わず、すべての人が自由に快適に利用でき、行動できるような思いやりあふれる配慮を、まちづくりやものづくりなどのあらゆる場面で、ハード・ソフトの両面から行っていこうとする考え方でございます。

次に、資料の左側の（２）今年度の主な取組みについてでございます。各局の令和３年度の主な取組みを記載しております。今年度の新規事業としまして、「ユニバーサル都市・福岡アンバサダー」による普及啓発につきましては、ユニバーサル都市・福岡のことをより多くの市民に知っていただくために、アンバサダーを任命し、アンバサダーが市内のユニバーサルな場所などを取材し、その様子を動画ＣＭや記事広告などを用いて、各世代に合わせた最適な広報手段で周知を展開いたします。

その他に、「福岡オレンジパートナーズ」と「オレンジ人材バンク」の設立、重度障がい者等就労支援事業、全区役所に「ご遺族サポート窓口」の開設、遠隔手話通訳サービスの開始、外国人支援ボランティアバンク、などがございます。

また、昨年度開始した、福岡版ユニバーサルマナー検定、インスタグラム等を活用したユニバーサルデザインに関する情報発信をはじめ、福岡市バリアフリー基本計画の改訂、ユニバーサルデザイン(UD)タクシーの導入促進、ベンチプロジェクトの推進などについても昨年度に引き続き、取り組んでいるところでございます。

なお、参考資料として、４月に開設されました外国人支援ボランティアバンクのパンフレットを配布しております。よろしければ市民の方への周知等についてご協力くださいますよう、よろしくお願いいたします。

次に２ページ目の（3）成果指標についてでございます。

成果指標のユニバーサルデザインの概念の理解度につきまして、令和２年度は５８．３％、ユニバーサルデザインへの取組みへの評価につきましては４４．３％となり、数値は上昇しておりますが、目標に達していない状況でございます。また、新たにユニバーサル都市・福岡のロゴマークの認知度を指標としており、目標値に向けて取り組んでいくこととしております。

資料の下段に、参考に令和２年度の市政アンケート調査結果から一部抜粋して載せております。ユニバーサルデザインの言葉の意味を知っていた、と回答した方を、年代別に見ますと、18歳から29歳まで、で最も高い数値の５８．３％となっております。一方で、福岡市はユニバーサルデザインの取組みが進んでいると回答した方を、年代別に見ますと、18歳から29歳まで、で最も高い数値の５４．８％となっております。この調査結果から、10代から20代までの若い年代の方が、他の世代に比べて、ユニバーサルデザインの認知度は広がっていると考えられます。一方で、30代から40代まで、60代以降の認知度が低いことが課題と考えられることから、先ほど申し上げましたとおり、今年度は「ユニバーサル都市・福岡アンバサダー」を任命して、各世代に合わせた最適な広報手段で周知を展開することとしており、ユニバーサルデザインへの認知度向上につなげていきたいと考えております。

以上で、簡単ではございますが、事務局からの資料の説明は終わらせていただきます